



## 「気」の思想 —も —未曾有の大震災を経験して—

三原内科クリニック  
喜久村 徳清

☆

「気」、スピリッツは大切なことと考えている。医療の分野で普及し、看護のテキスト（参考①）も出版された。これまで、本誌に「気」の思想 —を、「気」の思想 —こそを寄稿してきた（沖縄医報、2008年8月号、2009年8月号）ので、その続きとして執筆を考えているうちに、今年3月11日、日本に未曾有の天災が襲い、世界が一夜にして変貌した。それに触れるが、その前に考えること、哲学について書く。

☆☆

今年4月は、ドイツの哲学者ニーチェの「ツァラトゥストラ」をNHK-TV、100分de名著を見て、目からうろこの思いがした。

若き哲学者西研によれば、ニーチェの言うルサンチマン（ressentiment, うらみ、ねたみ、そねみ）は「無力からする意志の歯ぎしり」、「もし〜だったら」という「たら・れば」という感情であり、その根っこにあるものは自分の苦しみをどうすることもできない無力感であって、その無力感を何かに復讐することで紛らわそうとする心の動きであるという。それが問題になるのは、「悦びを求め、悦びに向って生きていく力を弱め」、「自分の人生をこう生きよう」という「主体的な生きる力を失わせる」からだとしている。

時にギターを片手に弾き語りながらさらに、「超人へのプロセス：幼子のように無心に」、「永遠回帰」、「仕方ないから欲したへ」、「悦びを吸み取るゲーム」等、解説していった。

ハーバード大学、マイケル・サンデル教授に

よる「白熱教室」が今年の正月、連続6時間、2日間にわたって放映された。「殺人に正義はあるか、命に値段はつけられるか、富は誰のもの、お金で買えるもの買えないもの、動機と結果どちらが大切?、嘘をつかない練習、愛国心と正義どちらが大切?、善き生の迫及」等のテーマで、具体的事例として「殺人と人肉食」、「クリントン大統領のモニカ・ルインスキー事件」、「プロゴルファーのゴルフ・カート使用問題」等面白く、講義を受ける学生から意見を聞き、解釈、解説し、哲学的議論に導き、概念を極限までおし進めていく。この対話型講義は演劇を見ている様な趣があり、ドイツの哲学者カントの言う「純粹理性」なるものが、明らかに実在することをまざまざと納得させられる程の迫力があつた。

第二次世界大戦後、世界は「不安な時代」であつて、サルトルの実存哲学は世界の文化、社会に多大な影響を与えた。『現実存在が本質に先立ち、アンガジュマン（engagement、社会参加、投企）、未来があなたを決定する、アプリアオリ（先験的）に自由、実存的決断、私は私になる』等のキーワードは難解な思想概念であり、理解し難く、受け入れられず、対立的な思想さえもあつた。それが50年を経た後の現代社会においては自由、第三の性は至極当り前のコトとなり、「自由の刑に処せられている」コトも普通に実感する。宇宙時代を謳歌している我々現代人は、自然科学の分野でニュートン力学、アインシュタインの相対性理論を過去のものとしたように、サルトルをもまた、過去のものとしている。

第一次、第二次世界大戦を経験した世界は、近代（モダン）な時代を経てポスト・モダンの時代に入り、「大きな物語」は死んだ。日本では第二次世界大戦後、高度成長期を謳歌し、Japan as No1と賞賛された時代も過ぎ去り、不況、失われた10年といわれ世紀末の混沌とした時代に入る。自然科学の熱力学から生まれた「複雑系」という現象、考え方は、経済や歴史に



も当てはまり、哲学思想の一つでもある。その混沌とした複雑な二十世紀末、思想、哲学、文学も自信を失くし停滞していた時期があり、かの有名な大江健三郎は一時、筆を置くことを考えていた。ところが、当時24才の史上最年少の芥川賞学生作家平野啓一郎が「日蝕」で華々しくデビュー、大江はその後、「宙返り」で復活、復帰し文学界も活気づく。最近では10代の女性芥川賞作家も続出して賑やかである。今年、第144回芥川賞は朝吹真理子の「きことわ」。

ニーチェはルサンチマンこそが神を生み出したとして神を否定した。『神が死んだ』後はニヒリズムの時代となり、「末人」（憧れを持たず、安楽を唯一の価値とする人）がはびこり、ひょっとするとそういう人間が人類の歴史が生み出す最後の人間（＝末人、まつじん）なのかもしれない（参考②）と西研は解説する。私の学生時代は絶望の哲学、“虚無主義のニヒリズム”は難解、異端の哲学と位置付けられていた。“ニヒリズム。価値、意味、目的を喪失し夢や理想の無い時代は今、まさに現代のことではないのか”（参考②、④）との認識があり、ポストモダンの時代をニーチェが最初に予言したとの指摘（参考⑤）もある。

日本の若手哲学者が危機感を抱き、二十一世紀の哲学はどうあるべきか地道に議論し、「倫理」をキーワードに存続すべきであろうとの結論を得て、その後、シリーズ＜人間論21世紀的課題＞が編集、出版（参考⑤）された。最初に私が手にした当時は、編者自身が「反時代的とも言えるこのような書物の出版」とあとがきで述べているように、その時代に説得力、現実感がなく、違和感さえ感じたことを覚えている。

☆☆☆

2011年3月11日、三陸沖を震源とする地震が発生した。沖縄県医師会は津波が沖縄に到達する時刻と万一の対応の緊急依頼文を即刻、各施設長に送付した。映像で見る震災は、どす黒い津波が無気味に恐ろしく地面を這い、建造

物、車、あらゆる物を押し流し、見る者を恐怖に落とし入れる。全世界に配信された映像は、まさしく2001年9月11日の世界貿易センタービル爆破事件、崩壊の映像の恐怖と相似て、一夜にして世界を変えてしまった。

津波が押し寄せ、そして引いていった境界線の一步向こうには、何事も無かったかのように、全く何も変わらぬ家並みや自然の風景があり、生死を分け、次元を異にしたその境界は何であるのか、何でもないのか。被災地は正断層多発、地盤沈下、地殻変動で、日本国土の地形をも変えている。地球誕生後、45億年の時を跨ぎ、地震は自然現象としてはさほど珍しいことでもないマグマ活動であろうし、これまで数百万回もくり返されて現在の地形になっていることでもある。そこに人類が住みついて、震災後2カ月半が経った今も8千人余の行方不明者があり、ボランティア活動者が予期せず不意に不幸を目にするという現実を知らされる時、発する言葉もない。（衷心よりお悔やみを申し上げます。）

被災地救援の参加報告をした講師が少年時代に過ごした海岸べりの震災前後の写真と、4月になって荒涼とした殺伐な廃墟に一本の桜の花が満開に咲いた写真を見せられるその時、自然の途方もない強烈な頑健さ、無常を感じざるを得ず、それは息をつまらせる程の涙を催う。観てる私って何？、私はなぜ生きて、観ているの？と、かえってそれは心の内奥に問いかけてくる。

☆☆☆☆

震災は震災のみにとどまらない。

石原東京都知事は震災発生30分前に150%ありえないと広言していた四選出馬を、妻の「あなたの仏道、天命」の一言で撤回、都議会で出馬表明をした。芥川賞選者の一人でもある石原慎太郎は、余生を文学に、長編小説を七つも細部まで構想していたと言う。さらに千年に一度の大震災で選挙運動どころではなかったが、災害対策に取り組む姿勢が評価され四期目を任せられることになる。

天与の才を授かった世界の競泳者、北島康介



はオリンピック出場の選考を兼ねた競泳会でスタート直後に左太もも付け根付近に肉離れ。9割がた棄権を考えながら変則的に泳ぎきったら選考基準を達成した。インタビューではこれまで言ったことのない「俺が世界の頂点に立つ」と初めて口にした。何が彼にそう言わしめたのか。畏れるように「何か俺を後押ししている。それは震災の体験」一と。

一億総写真家の現代社会において、時代を反映する写真を撮り続けてきた篠山紀信は、山口百恵、松田聖子、AKB48を撮り、アイドル写真集を数多く出版し、ニッチ的悦びの哲学を実存的に active に実践しているが、「これから震災を撮る。震災後、自分の中に何かが起こっている。それは日本人なら誰でも感じていることでしょう」一と。

震災発生当日、首都圏は停電、交通マヒ。帰宅困難者が600万人、M7以上の余震に「死ぬのではないか」という死の恐怖を暗い東京の夜に経験した者も多い。余震、誘発震はこれまで6千回も数え、NHKは「震災で変わった女の生き方」「命の大切さ、寄り添える人がほしい」を紹介した(5月30日)。「仕事すごくしたけど、それが何」、震災が後押しし、「結婚する人が増え」、「離婚を思い止まる人が増えた」。「いつ何が起こるか分からないから、素直に話せるようになった」、「家族バラバラ、どうしようか」、絆、「計画停電で家族とトランプをする大学生」、「責任あること、意味あること、考え方が重くなった」、「人に何かしてあげたい」、「近所づきあい、隣に住んでる人にアイサツするようになった」、「自治会活動も前向きに考えるようになった」。

震災は生き残っている人の意識、行動パターンに確実に影響を与えている。人と人との絆を強くし、共感を伴い、外国からも予想だにせぬ応援、援助が続き、国家を越えて人類は一つ、生きてる感情は同一ではないかと考え(させられ)る。中国も、昨年9月尖閣諸島沖で中国漁船衝突事件を起して対日感情を悪化させていた

が、震災への対応で日本人が“秩序正しく、冷静で、忍耐強い”と好意的な態度(読売新聞5月10日朝刊)と報じた。

復興、再生に向けて日本国民が前向きに、ひたむきに努力している。時間が経ち、生き残った被災者が我に返ると改めて身近な死者への後ろめたい後悔、サイバー・ギルドの問題が起きている。余震やテレビ映像が、傷つきやすい子供の心を襲っているとの報道もあり、医療人の果たす役割は今後も続く。

原発事故は人災も併せ加わって放射能汚染問題を拡散させている。電力不足から派生する計画停電は、東日本に限らず、全国民の意識改革を進めている。電力消費ピーク時の対策から勤務時間、勤務形態、サマータイム、消費電力軽減器具の開発等、多岐にわたる。期せずして対応しなければならなくなった自然エネルギーの問題、科学技術の進歩やその意味、価値を考えるとということ、それは、哲学の問題である(参考⑤)という。

自発的に集まった募金額は予想以上であったが、その9割以上が被災者に渡っていないという。(行政も被災したという事実はあるが)、行政も、国政も機能していない感を持つのは私一人ではない。税金を納めたがらない国民性もしこの国にあるとするならば、徴収する当事者も善意の莫大な寄付金が集まったこの際、よく考えてもらいたいといわざるをえない。個々の政策立案、実行のみにとどまらず、永田町の国民を不幸にする情報は政治家のバックボーンに政治理念の必要性をも痛感させられ、サンデルの主張する政治哲学、コミュニタリアニズム(コミュニティを重視するサンデルの哲学的立場、参考④)が、今後大切な役割を果たすと思えてなりません。

これまでも20世紀末に「ソフィーの世界」が出版、放映され、哲学ブームは幾度となく繰り返されてきた。そして今年5月20日には、<14歳からのプチ哲学シリーズ>が創刊





された。サンデルの「白熱教室」は、日本人の魂の奥深いところに潜在していたものに火をつけ、そして自分で考えることを促している（参考④）という。それは昨年来の放映、出版であるが、震災が後押しして、広まっているのは間違いないと思える。

人類の歴史の中で先駆者が世界を切り拓いていく中で、思想、哲学は常に先導的な役割を果たしてきた（レーニンのロシア革命は哲学者マクルスの唯物史観の実践であり、それはデカルトの身心二分論の系譜に由来する）。日常では意識しないこの哲学の問題は、自然界で起こるべくして起こった震災を契機に、新たな地平の展望を予兆させる。絆、つながれ、想い、元氣、がんばれ日本、さらには連日放映された日本公共放送機構のコマーシャルは“倫理的”そのものであって、世界に伝播した大災害の影響は、日本の若き哲学者らが現代の社会に問題意識として提示し続けてきた “倫理的パラダイムを復権させる時代（世紀）でなければならない”（参考⑤）を、現実の問題として認知、支持され、そして広がって、これからの世界を切り拓いていくものであると、今、ひしひしと感じているところです。

参考

- ① E. J. テイラー 江本愛子、江本新監訳：スピリチュアルケア 看護のための理論・研究・実践 医学書院
- ② 西研：ツァラトウストラ・ニーチェ 100分de名著NHKテレビテキスト 2011年4月創刊号
- ③ J. P. サルトル 伊吹武彦訳：実存主義とは何か 人文書院
- ④ 小林正弥：サンデルの政治哲学<正義>とは何か 平凡社新書
- ⑤ 石崎嘉彦、紀平知樹、丸田健、森田美芽、吉永和加：ポストモダン時代の倫理、シリーズ<人間論の21世紀的課題> 序 ナカニシヤ出版

(2011年5月末までの情報をもとに書きました。6月24日 記。)

(本稿、脱稿後、ニーチェの「ツァラトウストラ」100分de名著、NHK放送が好評につき8

月も再放送されることを知りました。また、「マイケル・サンデル大震災特別講義」がNHK出版より緊急出版（¥552+税）されました。8月1日 追記。)



### ふるさとに想う

海邦病院 内科・心療内科  
原 信一郎

本拙文は、東日本大震災後の復旧・復興に努力されている多くの方々の支援活動に感銘を受けながら書いているものです。被災にあわれた皆様へ心よりお見舞い申し上げるとともに、犠牲になられた方々のご冥福をお祈りし、ご遺族の皆様へ深くお悔やみを申し上げます。また、県医師会、日本赤十字社県支部、県臨床心理士会などから派遣され被災地に赴き支援活動を行ってこられた方々に対してあらためて敬意を表したいと思います。

連日の報道やニュースを見聞きするたびに、被災にあわれた方々からは“行方がわからない肉親を探し、そして故郷に戻り普通の毎日を送りたい”という悲痛な叫びが寄せられています。そして、この思いがあるから心身ともに疲弊しきっていながら、一秒、一分、一時間、一日を過ごされているように感じられます。この叫びが必ず叶うよう願っています。また何らかの力になりたいとも思っています。

私は、昨年9月に22年ぶりに帰郷しました。被災にあわれた方々の望郷の念に思いをかさねながら“ふるさと”への想いを述べてみたいと思います。

“ふるさと”を語るには多くのキーワードがあるかと思えます。まず地図がいらぬ場所・町のことでしょう。石垣で生まれ1歳を迎えてすぐ那覇に引越しました。わが家は、牧志1丁目798番地。木造二階建ての当時としては立派



な建物でした。さまざまな用事で帰郷するときには、必ずその辺りを徘徊します。「旧山形屋の向かいの小道を歩き下っていくと、左手には藤原産婦人科、右にはお墓と小さな森があり、一年中遊んだ原っぱに出て」とイメージしながら歩き始めます。歩きながら一銭町屋のおばあ、ねーねー、かばん屋のおばさん、にーにー達に思いを馳せ、“節子鮮魚店”の前に来ると足が止まります。そうです。そこは、わが家が建っていた場所で、お魚屋さんとして受け継がれている所なのです。となりのてんぷら屋を左手に見ながら右折して公設市場に近づいていくと左の角は屋嘉比商店があったところでした。TV放送が始まった時期には老若男女を問わずご近所の憩いの場所になっていました（1年後輩の屋嘉比康治君は、東大医学部に進まれ、埼玉医科大学の教授になられています）。右の角には末広菓子店が現存しており、和菓子が好きだった父の使いで、やぶれまんじゅう、羊羹、カステラなどをよく買いに行きました。

旧屋嘉比商店の向かいには市場の野菜売り場に通じる路地があり、長年てんぷらの匂いをぶんぶん飛ばしながら営業していたウチナーてんぷら屋さんがありました。今は、奥に移動しています。魚てんぷらとサターアングギーがとても美味しいお店です。必ずシーブンしてくれます。そして数え切れないほど見慣れている魚売り場や肉売り場も通りすぎることはできません。懐かしい人はいないかなと思いながら1周します。建物を出ると、もやしのひげを取ったり、いんげん豆のすじを取ったりしている“おばあ達”の仕草が目に入ってきます。小柄で皺くちな顔と豪快な笑い声には、時代の流れを生きてきた逞しさが感じられます。かまぼこ屋の傍を通り、人一人がやっと通れる路地を抜けると国際通りにでます。向かいには“大湾洋服店”が変わらずたたずんでいます。

筆を進めていくうちに気づきました。“ふるさと”を想うキーワードには、匂い、逞しさ、温もり、などもあるでしょうか。“節子鮮魚店”の前に立つと「茶碗蒸し」の匂いがしてくる気

がします。私は、小学校から高校までずっと野球をしていました。小さくて体力のない私に、母は、どんぶり一杯の茶碗蒸しを作ってくれました。それから毎日一本りビタミンDを飲まされていました。料理の上手な母でした。当時では珍しい「茶碗蒸し」や「お雑煮」など大変美味しく食べたものです。また母は、洋裁職人であった父が創った婦人服の既製品を平和通や新天地市場などの小さなお店で売る仕事にも就いていました。逞しい母でした。

てんぷらの匂い、野菜や魚や肉の匂い、かまぼこの匂い、茶碗蒸しの匂い、それを作っている人々の匂い、匂いを運ぶ風の匂い、海から運ばれる塩風の匂い、そして母の匂い。“ふるさと”を感じます。福井県丸岡町文化振興事業団が主催している「日本一短い手紙、“ふるさと”を想う」の中に「母さんが留守で、里帰りした気がしない。“ふるさと”って、母さんのことだったんだ。」という手紙があります。大変気に入っています。母の13回忌も過ぎましたが、しっくり感じます。

国際通りを少し歩いて旧山形屋の傍を市場とは逆方向に歩きパラダイス通りに出て左折するとまもなく安木屋の裏手から一銀通りが見えてきて、母校久茂地小学校が目にはいつてきます。「南にたてる城岳、西を流る久茂地川、」の校歌が自然にでてきます。周囲を一周すると次は「梯梧に映ゆるうるま島、珊瑚の花の咲くところ、」の那覇中学に足が向かいます。また一周したら、「世紀の嵐ふきすさび、故山の草木貌変え、」の那覇高校に向かうのです。そこで徘徊は終点になります。しばし野球部の後輩達の練習を眺めています。

帰郷して早速“模合仲間”に入れてもらっています。幼い頃から60歳を過ぎた今でも、“ふるさと”の友人・先輩・恩師の“温もり”を感じています。帰郷して、“ふるさと”に寄せるあふれる想いを感じることができましたが、一方で、変化しながら失われていく大切な想いもあるような気がします。













を設け、参加者がアイデアのつぼから何かを学び、生み出すような場を作る。

- ・丸一日行う。昼食などを用意し、交歓の場を設け、「TEDx体験」として提供する。

オーガナイザーチームでWebサイト立ち上げやスポンサーを探しなど分担作業し、私はプレゼンターを探した。知人や伝手を頼ってプレゼン候補者を募り、実際に会って話をし、最終的に13人のライブプレゼンターを決めた。

一方で公開中のTEDTalkビデオ約300本をインパクト、社会的意味、美しさ、ユーモア、長さの5つの観点で採点し、約100本を上映候補に選んだ。

TEDTalkビデオは全て英語である。日本人にはきつい。そこで英語に堪能な知人を誘い、たまたま進行中だったTEDTalk字幕翻訳プロジェクトに参加し、上映候補ビデオに字幕をつけ始めた。琉大情報工学科出身のこの知人は、TEDが提供するオンライン翻訳の面倒な仕組みが気に入らなかった。そこで彼と私でプログラムを開発し、Googleドキュメントを使って翻訳作業を簡便化した。

TEDTalkの字幕翻訳は二人のピアレビューで行うが、作業半ばで放置されている翻訳が散見された。そこで各地の日本語翻訳者に声をかけ、Googleグループに20人程度の翻訳互助会を作り、協力して翻訳した。その結果2009年中に約200本のTEDTalkに日本語字幕がつき、当時の翻訳言語ランキングのトップ5に入り、うち80本を担当した私自身が上位4人に入った。

私が手がけた分野は社会問題、天文、美術、音楽、写真など多岐に亘るが、生来の雑学好きで、ほとんどのテーマを何らかの形で知っており、翻訳するための知識の枠組みをすでに持っていたのが役立った。

翻訳をしつつ、また一方ではTEDxRyukyusのライブプレゼンターのプレゼンにアドバイスした。

作家エイミー・タンがTEDカンファレンスでバラしたのだが、TEDには「プレゼンター用ガイドライン」がある：

- \*リハーサルしろ、でも自然に振る舞え
- \*びっくりを準備しろ
- \*弱みも見せろ
- \*アル・ゴアが聴衆にいるかも
- \*だらだらやるな！！
- \*世界を変えろ！！
- \*「箇条書きリスト」を使うな！！

さらにレーザーポインターも使わない。(TEDでこれを無視して素晴らしい効果を上げているのは、カロリンスカ研究所の名物男ハンス・ロスリングくらいだ。) これらを元にプレゼンターに助言し、極限的にシンプルでポイントを押さえた効果的なビジュアルを考え、その中で情熱と哲学、「自分自身」を語ってもらう。

会場や食事などのアメニティの手配は、知人友人が身を粉にして助けてくれた。会場は沖縄電力さんが貸してくださり、映像関係は沖縄映像センターさんが協力してくれることになった。会場のインターネット接続ではOTnetさん、InfoRyukyusさんのお世話になり、その他たくさんの方々に助けていただいた。

準備を進めながら、TEDにTEDxRyukyusの開催を申し込んだ。予定は2010年2月20日土曜日。

2009年12月頃のある日、TED本体からメールが来た：

Dear Masahiro,

As this year comes to a close, we've been reflecting on the growth of our Open Translation Project. We were so humbled by the outpouring of time and skill each of you contributed to make it an overwhelming success. We were particularly impressed, however, by your efforts, and this is why we want to give you something special: a free pass to TEDActive, which will be held





真と現在

具志堅隆松さん：ボランティア遺骨収集ガマフ  
ヤーの会と不発弾の県内処理と子供の命

TEDTalk：ジェームズ・ナクトウェイの報道  
写真

昼食：だいこんの花特製

歌：アコースティック10行

橋口幹夫さん：沖縄の産婦人科救急医療

TEDTalk：ジル・ボルト・テイラーの脳卒中  
のインパクト

高良剛さん：沖縄の救急医療

長嶺隆さん：安田のヤンバルクイナ保護活動

TEDTalk：ナリニ・ナドカルニ：熱帯雨林の  
樹冠研究

上地正子さん：ロハス活動とミートフリーマン  
デー

おやつ

TEDTalk：スティーヴ・ジャーヴェソン：趣  
味のロケット打ち上げ

TEDTalk：ジャクリーン・ノヴォグラッツ：  
アフリカの貧困救済

歌：アコースティック10行

TEDTalk：ピーター・ディアマンディス：ス  
ティーブン・ホーキングをゼロGに

屋比久友秀さん：オープンソースソフトウェア  
TEDTalk：ジョニー・リー：Wiiリモコンハ  
ック

和田知久さん：大学とIT起業

William 斎藤さん：Change = Communication  
おやつ

篠宮龍三さん：Deep Sea Diving, One Ocean

内田詮三さん：美ら海水族館長：サメの生態

古谷千佳子さん：海人の写真

TEDTalk：ロバート・バラードの深海探査

歌：アコースティック10行

TEDTalk：ベンジャミン・ザンダー：モーツ  
ァルトとピアノと人生

以上を10:30から18:30までみっちり。終  
了後の評判は上々であった。人気投票のトップ  
3は長嶺隆さん、具志堅隆松さん、橋口幹夫さ

りだった。

開催までのプロセスはとても充実していた  
が、苦労もあった。

そもそもTEDを知らない人にそれが何か説  
明しづらい。昨年11月にクーリエジャポンで  
紹介されたが、以前は国内で知名度がなく、新  
興宗教か怪しい団体と疑る人もいる。特に官僚  
型の組織にこれを説明するには難渋した。ピ  
ル・ゲイツやクリントン氏が喋ってますよ、な  
どと説明し、ベネズエラの低所得者層の子女の  
音楽教育から生まれた驚異的なシモン・ポリバ  
ル・オーケストラや、両足が義足のモデル、エ  
イミー・マリズなどのTEDTalkを紹介する  
とわかってもらえる状態。いったん理解する  
と、殆どの人から協力が得られた。

TEDが、日常はオンラインネット上だけで  
活動していることも説明を困難にしている。  
TEDxカンファレンスの開催にあたって、彼  
らは「マスコミに大々的に宣伝するな、プレス  
と一線を画せ」という。代わりに会場にネット  
ワークを設置し、ストリーミング配信し、ツイ  
ッターなどのコンシューマーメディアを活用す  
るようにと推奨する。極めて現代的。

紙幅の関係で詳細は割愛させていただくが、  
さまざまな方々にたくさんの支援を戴いた。何  
よりもそれに感謝している。ものごとは他人と  
協力することで成し遂げられると実感した。信  
頼できる知人・友人がいることに感謝した。皆  
様本当にありがとうございました。

次はいつやるのか？、と聞かれる。開催した  
いのだが、今は身体に余力がない。しかし近い  
将来またやりたい。その時は、若い人が中心で  
やって欲しいと思う。参加者100人以上の  
TEDxイベント開催には、TED参加経験者がオー  
ガナイザーに必要だが、私はその役を果たす  
ことができる。TEDTalkの翻訳を続けながら、  
開催するプログラムへの助言と、TEDの雰囲気  
を伝えられればと考えている。Ideas worth  
spreadingを次の世代の人たちに手渡したい。